

一力、中央の攻防制す

井山、芝野との「3強時代」本格化

天元戦第5局に勝ち、感想戦で対局を振り返る一力遼新天元。右は井山裕太前天元。16日午後、徳島グランヴィリオホテル（撮影：溝田幸弘）

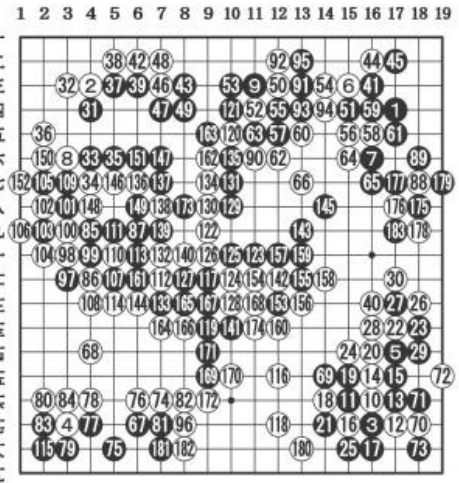


一力の読みが上回り、右上白と中央黒とのフリカワリ

6度目挑戦、井山の壁越える

一力遼新天元(23)は、16日に徳島市の徳島グランヴィリオホテルで打たれた囲碁の第46期天元戦5番勝負(神戸新聞社主催)の第5局。今年の勝ち星ランキング1位(47勝13敗)の一力遼新聖(23)と同2位(38勝12敗)の井山裕太天元(31)は、今期天元戦以前は3勝16敗と圧倒されてきた。自身がタイトル獲得に手間取るうちに、一力と並んで「令和三羽がらす」と称され、将来を囑望されてきた同年代のライバルたちが活躍するように。許家元八段(22)は18年に碁聖を、芝野虎丸(21)は19年に王座をいずれも井山から奪い、一力には刺激となっただろう。

最初の挑戦は、19歳だった2016年。史上最年少の若さで天元戦に登場したが、1勝3敗で敗退。翌17年10月から18年2月にかけて天元戦、王座戦、棋聖戦で続けざまに戦い、「17番勝負」といわれたが、1勝もできずに10連敗を喫した。18年の王座戦でも敗退。井山との番勝負の通算成績は、今期天元戦以前は3勝16敗と圧倒されてきた。自身がタイトル獲得に手間取るうちに、一力と並んで「令和三羽がらす」と称され、将来を囑望されてきた同年代のライバルたちが活躍するように。許家元八段(22)は18年に碁聖を、芝野虎丸(21)は19年に王座をいずれも井山から奪い、一力には刺激となっただろう。



●一力 ○井山
先番6目半コミ出し
(1-183)

一力遼新天元(23)は、16日に徳島市の徳島グランヴィリオホテルで打たれた囲碁の第46期天元戦5番勝負(神戸新聞社主催)の第5局。今年の勝ち星ランキング1位(47勝13敗)の一力遼新聖(23)と同2位(38勝12敗)の井山裕太天元(31)は、今期天元戦以前は3勝16敗と圧倒されてきた。自身がタイトル獲得に手間取るうちに、一力と並んで「令和三羽がらす」と称され、将来を囑望されてきた同年代のライバルたちが活躍するように。許家元八段(22)は18年に碁聖を、芝野虎丸(21)は19年に王座をいずれも井山から奪い、一力には刺激となっただろう。

一力遼新天元(23)は、16日に徳島市の徳島グランヴィリオホテルで打たれた囲碁の第46期天元戦5番勝負(神戸新聞社主催)の第5局。今年の勝ち星ランキング1位(47勝13敗)の一力遼新聖(23)と同2位(38勝12敗)の井山裕太天元(31)は、今期天元戦以前は3勝16敗と圧倒されてきた。自身がタイトル獲得に手間取るうちに、一力と並んで「令和三羽がらす」と称され、将来を囑望されてきた同年代のライバルたちが活躍するように。許家元八段(22)は18年に碁聖を、芝野虎丸(21)は19年に王座をいずれも井山から奪い、一力には刺激となっただろう。

一力遼新天元(23)は、16日に徳島市の徳島グランヴィリオホテルで打たれた囲碁の第46期天元戦5番勝負(神戸新聞社主催)の第5局。今年の勝ち星ランキング1位(47勝13敗)の一力遼新聖(23)と同2位(38勝12敗)の井山裕太天元(31)は、今期天元戦以前は3勝16敗と圧倒されてきた。自身がタイトル獲得に手間取るうちに、一力と並んで「令和三羽がらす」と称され、将来を囑望されてきた同年代のライバルたちが活躍するように。許家元八段(22)は18年に碁聖を、芝野虎丸(21)は19年に王座をいずれも井山から奪い、一力には刺激となっただろう。

好調一力が雪辱。16日に徳島市の徳島グランヴィリオホテルで打たれた囲碁の第46期天元戦5番勝負(神戸新聞社主催)の第5局。今年の勝ち星ランキング1位(47勝13敗)の一力遼新聖(23)と同2位(38勝12敗)の井山裕太天元(31)は、今期天元戦以前は3勝16敗と圧倒されてきた。自身がタイトル獲得に手間取るうちに、一力と並んで「令和三羽がらす」と称され、将来を囑望されてきた同年代のライバルたちが活躍するように。許家元八段(22)は18年に碁聖を、芝野虎丸(21)は19年に王座をいずれも井山から奪い、一力には刺激となった。中央の攻防は

	一力	井山
2016年 天元戦	1勝	3勝
17 天元戦	0勝	3勝
17 王座戦	0勝	3勝
18 棋聖戦	0勝	4勝
18 王座戦	2勝	3勝
20 天元戦	3勝	2勝
計	6勝	18勝

天元・碁聖	一力 遼(23)
棋聖・名人・本因坊	井山裕太(31)
王座・十段	芝野虎丸(21)

一力遼新天元(23)は、16日に徳島市の徳島グランヴィリオホテルで打たれた囲碁の第46期天元戦5番勝負(神戸新聞社主催)の第5局。今年の勝ち星ランキング1位(47勝13敗)の一力遼新聖(23)と同2位(38勝12敗)の井山裕太天元(31)は、今期天元戦以前は3勝16敗と圧倒されてきた。自身がタイトル獲得に手間取るうちに、一力と並んで「令和三羽がらす」と称され、将来を囑望されてきた同年代のライバルたちが活躍するように。許家元八段(22)は18年に碁聖を、芝野虎丸(21)は19年に王座をいずれも井山から奪い、一力には刺激となった。中央の攻防は

攻め取りに手応え

一力遼新天元の話 黒31(4四)は予定の行動だったが、直後の33(4六)、35(5六)はどうだったか。黒145(14八)と取り、161(6十一)から攻め取りになって手応えを感じた。内容はまだまだ(井山前天元に)及ばないところがあり、来年以降も精進していきたい。

仕掛けて無理した

井山裕太前天元の話 序盤は長期戦の様相で、形勢判断ができていたわけではない。白124(10十一)のツケコシは無理気味な仕掛けで、このあたりでは形勢を損ねていたのかもしれない。本シリーズは、短い時間でいいパフォーマンスをすることについて、いまひとつだった。